

## 「2016年オリンピック競技選考に対する安西孝之会長コメント」

この度の（8月13日）IOC理事会で、ゴルフが2016年からのオリンピック競技として推薦されたことは、私自身大変うれしく思っていますし、日本のゴルフ関係者にとりましても、そして世界のゴルフ界にとっても大変な朗報です。

ゴルフは、第2回（1900年）のパリ大会、次のセントルイス（1904年）で正式競技として行われていた実績があります。また、近年では1996年のアトランタ大会及びロンドン大会の際にも復帰を目指してきた経緯があります。

今日、ゴルフは、わが国では1,000万人、世界では6,000万人を超える老若男女に親しまれており、まさにゴルフがグローバルなスポーツとして全世界に普及してきています。更に「エチケット、マナー、フェアプレーを基本とする」ゴルフの理念が、まさにオリンピック精神そのものであり、こうした点が今回のIOC理事会において、ゴルフがオリンピック競技としてふさわしいものとの評価に繋がったものと考えます。

最終決定は、10月7日のIOC総会になるとの事ですが、日本ゴルフ協会としてもオリンピック競技としてゴルフが正式決定されるよう、更に国際ゴルフ連盟（IGF）を中心に展開される活動を今後とも支援していきたいと考えております。